『とり年の人がいない!?』　　5歳児　12月　伏見こども園

エピソード

絵本「じゅうにしのおはなし」を読んで干支に興味をもった子ども達。保育者が「みんなの干支は何？」と聞くと、知っている子が「いのしし」「ねずみ」と伝えました。「じゃあ髙岡先生は何年なの？」「山中先生は？」「4歳さんはどうだろう？」と興味が広がり、いろいろな人に聞いてみることにしました。

「ねずみが一番でその後がうしだよ」「たつ、み、うま、ひつじ…」「ねこは入ってないで。嘘つかれたもん」と言いながら、画用紙に友達と干支をかいていきます。表が出来上がると「ぼくはいのしし年だよ」と自分の名前をいのししの欄にかきました。そら組の子ども達が順番に名前をかいていきますが、いのししとねずみ以外の欄は真っ白です。「じゃあ三好先生に聞きに行こう!」「陽子先生にも聞いてみようよ」と、たくさんの先生にインタビューをして、どの先生が何年か確かめることにしました。

「ひつじ年なんだって!紙にかこう!」「たつ年とうさぎ年の先生がいっぱいいるんだね」「やった!いぬ年の先生が見つかったぞ」と、どんどん表に書いていきます。しかしとり年だけ一人も見つかりません。「とり年の先生はいないのかな？」「まだ聞いてない先生は誰だろう？」「A 先生と B 先生とC先生とD先生だ!」「じゃあ4人に聞いて、とり年じゃなかったらこども園にとり年の人はいないってことだね」とみんなで確かめ、4人に聞いてみることにしました。すると4人の中の一人の先生が「コケコッコーだよ」と答えてくれました。すると子ども達は「コケコッコーやって!」「にわとりの声やからとり年や!」「すごい!とり年の人が見つかった!」と、十二支すべて揃ったことを大喜びしていました。

子どもの育ちや学び

ね、うし、とら、う…

“さる”がかけたら、次は私が “とり”をかいてもいい？
（協力・文字への興味）

僕はうし年だよ

何年ですか？
（質問・興味）

とり年の先生はいるかな？
（好奇心・
十二支をそろえたい）

・干支があること知り、自分の干支は何か伝えたり、友達や保育者の干支は何か聞いたりし、興味をもつ。
・絵本の物語から動物の順番を覚えたり、来年はうま年であることを知ったりする。
・ひらがなをかくことに意欲をもち、1枚の表を友達と共有して順番にかく。
・色々な人にインタビューをし、人によって干支が違うことに気付く。
・とり年の人を見つけるために、こども園の中でまだ聞いていない保育者を考える。
・十二支全てそろったことを友達と一緒に喜ぶ。

保育者の思い

・十二支のお話をクラスで読むと、最初は自分と友達が同じ干支であることを喜んでいましたが、自分と保育者の干支が違うことに気付くと、「他の先生にも聞いてみよう」と知りたいという気持ちが出てきました。4月から異年齢間の交流を大切にしてきたことで、他学年の保育者にも自分達から進んで聞きに行く姿につながりました。

・とり年だけいないことに気付いたときに、まだインタビューしていない先生は誰か、クラスで考える時間をとりました。子ども達の好奇心が高まっているタイミングを逃さないことを大切にしました。

家庭だったら・・・

子ども達から干支を聞かれたお家の方も多いのではないでしょうか？ご協力ありがとうございました。年末年始にみなさんで集まる機会も多いと思います。誰が何年か聞いてみても面白いですね。